

D I ニュース

薬剤部 薬品情報係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	アサコール 400mg	市販直後調査 平成21年12月～平成22年6月
(英名)	ASACOL tablets 400mg	
(規格・含有量)	400mg/錠 1錠中にメサラジン 400mg を含有する	
(一般名)	メサラジン	
(メーカー名)	ゼリア新薬	
【薬価収載日】	2009年12月	
【薬価】	89.10円/錠	
【薬効コード】	872399	
【薬効分類名】	潰瘍性大腸炎治療剤	
効能・効果	潰瘍性大腸炎(重症を除く)	
用法・用量	通常、成人にはメサラジンとして1日2,400mgを3回に分けて食後経口投与するが、活動期には、1日3,600mgを3回に分けて食後経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	
禁忌	1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2 サリチル酸塩類に対し過敏症の既往歴のある患者 3 重篤な腎障害のある患者 4 重篤な肝障害のある患者	
相互作用	他剤作用増強 アザチオプリン、メルカプトプリン	
副作用	重大な副作用 骨髄抑制、再生不良性貧血、汎血球減少症、無顆粒球症、白血球減少症、好中球減少症、血小板減少症、心筋炎、心膜炎、間質性肺炎、好酸球性肺炎、膵炎、間質性腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、肝炎	
備考	pH依存放出性フィルムコーティング錠(特殊加工のコーティングを施しているため粉砕できない)	

(薬品名)	ヤクバンテープ 60mg
(英名)	YAKUBAN TAPE
(規格・含有量)	7枚入/1袋 1枚15cm×14cm(膏体2.52g/210cm ²)中に日本薬局方フルルビプロフェン60mgを含有する
(一般名)	フルルビプロフェン製剤
(メーカー名)	科研製薬
【薬価収載日】	2009年11月
【薬価】	31.70円/枚
【薬効コード】	872649
【薬効分類名】	経皮吸収型鎮痛消炎プラスタ剤
効能・効果	下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎 変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎(テニス肘等)、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛
用法・用量	1日2回、患部に貼付する。
禁忌	1 本剤又は他のフルルビプロフェン製剤に対して過敏症の既往歴のある患者 2 アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者〔喘息発作を誘発することがある〕
相互作用	—
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー様症状、喘息発作の誘発(アスピリン喘息)
備考	ゼポラスと同一成分である。

(薬品名) フェリコン鉄静注液 50mg	
(英名)	Ferricon 50mg iron i.v. injection
(規格・含有量)	2mL/管 2mL中に(シデフェロン 120.2mg中に)鉄として50mg含有する
(一般名)	シデフェロン製剤
(メーカー名)	日本臓器製薬
【薬価収載日】	2006年12月
【薬価】	171円/管
【薬効コード】	873222
【薬効分類名】	静注用鉄剤/鉄欠乏性貧血治療剤
効能・効果	<p>下記の場合の鉄欠乏性貧血 (急・慢性出血による貧血、本態性低色素性貧血等)</p> <p>(1) 鉄剤の経口投与が無効の場合、又は経口投与によってヘモグロビン値が満足すべきほど上昇しない場合。 (2) 鉄剤の経口投与が禁忌の場合、あるいは不耐容性の場合(たとえば消化器潰瘍のある場合、消化不良症状がある場合等)。 (3) 大量あるいは頻回の失血により鉄欠損があつて、鉄の急速な補給を必要とする場合。</p>
用法・用量	<p>通常成人1日2.0～4.0mL(鉄として50～100mg)をそのまま、又は、5～20%ブドウ糖液又は5～20%果糖液10～20mLに用時希釈し、2～3分間かけて徐々に静脈内注射する。</p> <p>点滴静注を行う場合は、5%ブドウ糖液、5%果糖液又はラクトリンゲル液200～300mLに用時混合し、約1時間かけて点滴静注する。</p> <p>投与総量は患者の体重及びヘモグロビン値に基づき算出する(中尾式による)。</p> <p>投与総量(鉄としてのmg) $= [2.7(15 - \text{治療前患者ヘモグロビン量 g/dL}) + 17] \times (\text{体重 kg})$ 又は、投与総量(鉄としてのmg) $= [0.4(100 - \text{治療前患者ヘモグロビン値 \% Sahli}) + 17] \times (\text{体重 kg})$</p>
禁忌	<p>1 重篤な肝障害を有する患者</p> <p>2 鉄欠乏状態にない患者</p> <p>3 鉄注射剤に対し過敏症の既往歴のある患者</p>
相互作用	—
副作用	重大な副作用 ショック
備考	経口鉄剤との併用により、鉄の過剰負荷を招き、副作用を増大させることがあるので併用しないこと 必要鉄算出量が投与されてなくても、ヘモグロビン値が正常に達していれば、投与を中止すること

(薬品名) パタノール点眼液 0.1%	
(英名)	Patanol Ophthalmic Solution 0.1%
(規格・含有量)	5mL/本。1mL中に1.1mg(オロパタジンとして1mg)含量する
(一般名)	オロパタジン塩酸塩点眼液
(メーカー名)	日本アルコン協和発酵キリン
【薬価収載日】	2006年9月
【薬価】	196.50円/1mL
【薬効コード】	871319
【薬効分類名】	抗アレルギー点眼剤
効能・効果	アレルギー性結膜炎
用法・用量	通常、1回1～2滴、1日4回(朝、昼、夕方及び就寝前)点眼する。
禁忌	本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
相互作用	—
副作用	眼痛、角膜炎、掻痒症
備考	本剤に含まれているベンザルコニウム塩化物は、ソフトコンタクトレンズに吸着されることがあるので、点眼時はコンタクトレンズをはずし、10分以上経過後装用すること

(薬品名)	グラセプターカプセル 0.5mg/1mg 劇
(英名) (規格・含有量) (一般名) (メーカー名) 【薬価収載日】 【薬価】 【薬効コード】 【薬効分類名】	Graceptor Capsules 0.5mg/1mg 0.5mg/Cap 有効成分(1カプセル中)タクロリムス水和物 0.51mg(タクロリムスとして 0.5mg)含有する 1mg/Cap 有効成分(1カプセル中)タクロリムス水和物 1.02mg(タクロリムスとして 1mg)含有する タクロリムス水和物徐放性カプセル アステラス製薬 2008年9月 514.5円/0.5mgCap 905.2円/1mgCap 873999 免疫抑制剤
効能・効果	1 下記の臓器移植における拒絶反応の抑制 腎移植、肝移植、心移植、肺移植、膵移植 2 骨髄移植における拒絶反応及び移植片対宿主病の抑制
用法・用量	(腎移植の場合) 通常、移植2日前よりタクロリムスとして0.15~0.20mg/kgを1日1回朝経口投与する。以後、症状に応じて適宜増減する。 (肝移植の場合) 通常、術後初期にはタクロリムスとして0.10~0.15mg/kgを1日1回朝経口投与する。以後、症状に応じて適宜増減する。 (プログラフ経口製剤から切り換える場合:腎移植、肝移植、心移植、肺移植、膵移植、骨髄移植) 通常、プログラフ経口製剤からの切り換え時には同一1日用量を1日1回朝経口投与する。
禁忌	1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2. シクロスポリン又はボセンタン投与中の患者 3. カリウム保持性利尿剤投与中の患者 4. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
相互作用	禁忌 ①生ワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン、乾燥弱毒生風しんワクチン、経口生ポリオワクチン等②シクロスポリン(サンディミュン、ネオオラル)③ボセンタン(トラクリア)④カリウム保持性利尿剤 スピロノラクトン(アルダクトンA、アルマトール)カンレノ酸カリウム(ソルダクトン) トリアムテレン(トリテレン) 本剤副作用増強 腎毒性のある薬剤 ①アムホテリシンB、②アミノ糖系抗生物質、③スルファメトキサゾール・トリメプリーム、④非ステロイド性抗炎症剤等 本剤副作用増強・他剤作用増強 免疫抑制作用を有する薬剤 ①免疫抑制剤②副腎皮質ホルモン剤等③抗リウマチ薬(DMARD)④メトトレキサート等 他剤作用減弱 ①不活化ワクチン インフルエンザHAワクチン等 本剤作用減弱 ①抗てんかん剤 カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン②抗生物質 リファンピシン③飲食物セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品 本剤作用増強 ①抗生物質(エリスロマイシン、ジョサマイシン、クラリスロマイシン)②アゾール系抗真菌剤(イトラコナゾール、フルコナゾール、ボリコナゾール等)③カルシウム拮抗剤(ニフェジピン、ニルバジピン、ニカルジピン、ジルチアゼム等)④HIVプロテアーゼ阻害剤(リトナビル、サキナビル、ネルフィナビル)⑤その他の薬剤(プロモクリプチン、ダナゾール、エチニルエストラジオール、オメプラゾール、ランソプラゾール、トフィソバム)⑥飲食物(グレープフルーツジュース) 本剤・他剤副作用増強(血清カリウム値上昇) エブレレン
副作用	重大な副作用 急性腎不全、ネフローゼ症候群、心不全、不整脈、心筋梗塞、狭心症、心膜液貯留、心筋障害、中枢神経系障害、脳血管障害、血栓性微小血管障害、汎血球減少症、血小板減少性紫斑病、イレウス、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、呼吸困難、感染症、進行性多巣性白質脳症(PML)、BKウイルス腎症、リンパ腫等の悪性腫瘍、膵炎、糖尿病、高血糖 その他の副作用 腎障害(BUN上昇、クレアチニン上昇、クレアチニンクリアランス低下、尿蛋白)高カリウム血症、高尿酸血症、低マグネシウム血症血圧上昇胸やけ肝機能異常(AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、AI-P上昇、LDH上昇、γ-GTP上昇)

削除医薬品通知

●4月1日より

・フェジン静注 40mg	…消尽後削除
・カトレップパップ 70mg(5枚入り)	…削除
・リンデロン坐薬 0.5mg	…削除
・トラメラス点眼液 0.5% 5mL	…削除
・ジョサマイシン錠 200mg	…削除
・12%ヒカリアミン X 注 200mL	…販売中止のため削除

適応追加通知

注射用ノボセブン 1.2mg 注射用ノボセブン 4.8mg	<p>先天性第 VII 因子欠乏症患者における出血傾向の抑制 本剤は製剤に添付された溶解液を全量用いて溶解し、2～5分かけて静脈内に注射する。 15～30 $\mu\text{g}/\text{kg}$ (0.75～1.5KIU/kg)を止血が得られるまで4～6時間ごとに投与する。出血の種類及び程度に応じて投与量は適宜増減できる。また、投与間隔も適宜調整できる。</p>
ドルミカム注射液 10mg	<p>麻酔前投薬 通常、修正在胎 45 週以上(在胎週数+出生後週数)の小児にはミダゾラム 0.08～0.15mg/kgを手術前 30分～1時間に筋肉内に注射する。</p> <p>集中治療における人工呼吸中の鎮静 (導入)通常、修正在胎 45 週以上(在胎週数+出生後週数)の小児には、初回投与はミダゾラム 0.05～0.20mg/kgを少なくとも2～3分以上かけて静脈内に注射する。必要に応じて、初回量と同量を少なくとも5分以上の間隔を空けて追加投与する。 (維持)通常、修正在胎 45 週以上(在胎週数+出生後週数)の小児には、ミダゾラム 0.06～0.12mg/kg/hより持続静脈内投与を開始し、患者の鎮静状態をみながら適宜増減する。(投与速度の増減は25%の範囲内とする) 通常、修正在胎 45 週未満(在胎週数+出生後週数)の小児のうち、修正在胎 32 週未満ではミダゾラム 0.03mg/kg/h、修正在胎 32 週以上ではミダゾラム 0.06mg/kg/hより持続静脈内投与を開始し、患者の鎮静状態をみながら適宜増減する。</p>
フェリセルツ散 20%	<p>胆道膵管撮影時の消化管陰性造影 通常、成人にはクエン酸鉄アンモニウムとして1,200mg(2包)を150mLの水に溶かし経口投与する。</p>
プロテカジン錠 10mg	<p>逆流性食道炎 通常、成人にはラフチジンとして1回10mgを1日2回(朝食後、夕食後または就寝前)経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増減する。</p>

